

# グラントワ応援団通信

令和3年

12月10日発行

第57号

## 「トライ」から生まれるもの

島根県芸術文化センター

副センター長 花岡 俊直

今年4月に副センター長としてグラントワに参りました花岡です。よろしくお願いいたします。

益田に来て半年が過ぎました。单身生活に不安もありましたが、意外と快適な時間を過ごしています。家事一般も、試行錯誤ながらも何とかやっています。料理は、少々失敗しても「塩コショウと焼肉のたれ」があれば、何とか格好は付きますし、運が良ければ、「新しい味(?)」に巡り会うことも・・・。

また買い物では、ちよつとした小物を求めて100円ショップ

に行く、毎回予定外の「目新しいもの」を手にとつてしまいます。全く使えなかった失敗もありましたが、一方で部屋の中は、思いがけず快適さが増していくので、これはこれで「アリ」です。



グラントワにおいても、コロナの拡大という初めての経験に、イベント毎に難しい判断を迫られています。加えて、11月

以降は大・小ホールが耐震改修工事で約一年半休館となります。

このような状況下でも、西部地域の「芸術文化の拠点施設」としての役割を果たしていかなくてはなりません。手探りでも臆することなく、「トライ」を続けて行くことが大切だと思います。

ボランティア会の皆様には、お世話になることばかりですが、グラントワの「トライ」にご理解をいただき、「エラー」も暖かく見守っていただければ幸いです。

最後に、耐震改修工事についてお知らせします。大・小ホール及び大ホールホワイエは、天井等の落下防止と照明のLED化工事のため、令和5年4月末まで休館となります。11月9日には、回廊境にあるシャッターを降ろし、工事モードに突入しました。工事完了後は、よりよ

い環境で、より安全に皆さまをお迎えすることが出来ますので、再開の日を楽しみにお待ちしております。きたいと思えます。



『グラナリエ』 12月26日(日)まで 日没～PM9:00 中庭広場ほか

## グラントワ・ボランティア会の研修（石見銀山へ）

情報発信グループ 飯塚 哲也

ボランティア会はさまざまな分野で多くの活動を知ることを目的として、毎年研修を実施しています。

今年は新型コロナウイルス感染症状況に鑑み、県内の施設で実施すること、「石見銀山」を訪ね、「石見銀山ガイドの会」の皆さんと交流し、研修することになりました。

好天に恵まれた十一月二十日（土）参加者十五名がグラントワをバスで出発。「石見銀山ガイドの会」の皆さんとお会いしお互いの会の内容を交換して意見交換をしました。お聞きしたことを書きますと。

当初は「ボランティアガイドの会」として発足し、平成十八年に有料化に伴い「石見銀山ガイドの会」となり、現在、役員や研修中の方々を含めて五十四名体制とのこと。会の運営は十名の役員の方中心に行われ、ガイド料の収入で自主的に運営をされているとのことでした。平均年齢は七十二歳で高齢化は同じ悩みのようなものでした。

また ガイド育成にも取り組み、十

分研修を終えた人がガイドに出るシステムのようなのです。

ガイドの中に「ワンコイン・ガイド」もあり、五百円で当日でも参加可能だそうです。

また、展望台で朝ご飯を食べる「天空の朝ごはん」というイベントもある様にお聞きしました。（現在はコロナのため実施していないとのこと）集客のためいろいろのアイデアを展開されているようでした。

また ガイドの方々が実践されている様子を学ぶことができました。「石見銀山資料館」、「熊谷家住宅」そして「銀山集落跡」を笑顔で詳しく案内、説明をいただきました。ありがとうございました。

午後から銀山の中心部にある「銀山集落跡」の案内、ガイドをお願いしました。

「仙の山」の頂上付近に広い平地があり、そこが集落跡です。建物があった跡、井戸の跡があり、また採鉱された「間歩（まぶ）」（坑道）がみ

られました。

ここから大変貴重な発見がされています。それは銀を生産した「鉄の鍋」や陶器、下駄などの生活用品が出土したことです。ここには千以上の建物が残っており、多くの人が生活し、生産に従事していたそうです。「職住近接」というところでしょうか。また、たくさん立派な「墓石」が見つかったとのことでした。想像すると当時の豊かな生活の様子を垣間見ることが出来ます。

まだまだ未調査の遺跡があるようです。ガイドの説明にありましたようにまさに「宝の山」ですね。

最後に、今回は有意義な交流会と貴重な遺産の学習を企画し準備頂いた上野さんはじめ事務局の方々に感謝いたします。



上、研修会場  
下、「仙の山」案内板



現地研修の様子



参加会員の集合写真

あ  
と  
が  
き

令和3年12月現在、新型コロナウイルス対応で依然として催しもの等の開催が縮小、グラントワ内においても同様、その上、館内は耐震工事をはじめ、そうしたことで情報誌発行回数も今年は2回。11月のボランティア研修会を機に、第57号の発行となりました。

(AM)